

全油販連NEWS

令和6年第1号(R6-No.1)

2024年5月31日(金)

全油販連創立 70 周年記念誌

油脂の安定供給と価値創出へ勇往邁進
～パラダイムシフトの中で～

令和癸卯（令和5年10月）

全国油脂販売業者連合会

過去10年間の歩みをまとめた記念誌を発行

全国油脂販売業者連合会

目 次

1. 御挨拶 1
2. 全国油脂販売業者連合会 第70回定時総会並びに
創立70周年記念講演会及び記念式典・祝賀パーティー開催
. 2
3. 全油販連創立70周年記念誌編集後記 (幸書房 田中社長)
. 4
4. 関西油脂連合会設立20周年 6
5. 愛知県油脂卸協同組合創立70周年 8
6. 賛助会員からひとこと 10
「Summit Spirit」 (サミット製油株式会社)
7. 記者の視点 13
「宿命とは」 (油脂特報社 蟻川社長)
8. 『油脂未来セミナー～花から実へ～』再開! . . . 14
9. 東京油問屋市場第124回起業祭を開催 . . . 16
10. 日使頭祭 18
11. 各地区の活動状況、会員情報 19

御挨拶



全国油脂販売業者連合会
会長 館野 洋一郎

令和6年の全油販連ニュース第1号の発行に当たり、一言御挨拶申し上げます。

まず、皆さま御承知のとおり、新年早々に能登半島地震が発生し、いまなお復旧作業が続いている状況です。被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

さて、全油販連は昨年10月に創立70周年を迎えることができました。記念式典の開催や記念誌の発行においては、農林水産省、一般社団法人日本植物油協会はじめ油脂業界の皆さま、そして各地区会員の方々に、多大な御支援・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

農林中金総合研究所理事長（元農林水産次官）の皆川芳嗣理事長による記念講演でもお話があったとおり、70年前の全油販連設立時から今日までに我が国や世界の社会・経済は大きく変化しており、特に油脂業界を巡る環境はここ数年間で需要と供給の両面で「パラダイムシフト」が生じていると言っても過言ではありません。そのような中だからこそ、全油販連設立当時の趣旨（原点）に立ち返り、農林水産省や油脂メーカー各社の御協力・御支援を賜りながら、油脂の需要拡大と安定供給に向けた取組に尽力すること、そして各地の油問屋・油脂卸の経営課題を解決していくことが肝要と考えられるところです。

このため、全油販連においては、コロナ禍の前から開催してきた油脂未来セミナーや今年新たに設置することになった経営委員会の活動内容を充実していくことはもちろん、今後、油脂に関する情報発信や油脂メーカー各社との連携に取り組んでまいりたい所存です。

皆様方におかれましては、引き続き、御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

全国油脂販売業者連合会 第70回定時総会並びに 創立70周年記念講演会及び記念式典・祝賀パーティー開催

日時 令和5年10月24日（火）14：45～18：30
場所 ロイヤルパークホテル 春海の間・有明の間

全国油脂販売業者連合会は、昭和28年（1953年）3月2日に設立されてから本年で70周年を迎え、創立70周年記念講演会及び記念式典・祝賀パーティーを開催した。

総会では、令和4年度事業報告及び決算報告並びに令和5年度事業計画案及び予算案が原案のとおり承認された。

総会后、第1部の記念講演会を開催。株式会社農林中金総合研究所理事長 皆川芳嗣様（元 農林水産事務次官）が「内外の政治・社会・経済の変化を体験的に振り返り未来を考える」をテーマに、政治、経済、地球環境、農林水産政策について話されたあと、障害者の農業分野での活躍を通じて農業・福祉の両分野の課題を図る「農福連携」について詳しく語った。



皆川氏の講演

第2部の祝賀パーティーでは、開催にあたり宇田川公喜副会長が「戦後、油糧配給公団が解散して統制が解除されたのが昭和25年。その後朝鮮戦争による特需があり、2年後に戦争が終わると、新三品と言われた油脂、ゴム、皮革が先物で大暴落。油脂業界も大混乱に陥り、そこで大同団結して組織を作ろうということになり、昭和28年に全油販連が設立された。当時、食用油は高級なものだったので一般的にことばとして使われていなかった。そこで食用油を全国に広めていくことと安定供給、製販の大同団結を願って立ち上がったのが70年前であった」と挨拶をした。



宇田川副会長の挨拶

次に一般社団法人日本植物油協会 新妻一彦会長（昭和産業㈱会長）より「貴連合会は単なる卸業務に留まらず、市場ニーズの把握や合理的な流通を担う存在へと変貌を遂げた。油脂販売における唯一の全国団体として、油脂メーカーと車の両輪のごとく一体となり、連携を強め、油脂流通の円滑化と需要開拓に積極的に取り組み、油脂の安定供給と市場拡大に大きく貢献された。現在、干ばつの影響やウクライナ紛争の長期化に加え、中近東では新たな紛争も始まり、エネルギー価格の高騰や円安の継続などさまざまな外的要因も加わり、依然として植物油を取り巻く環境は大変厳しい局面が続いている。この難局を乗り切るためには製販の関係者が「Our Team」で一体となってさらに絆を深めていくことが必要だと感じている」と祝辞をいただき乾杯となった。



日油協新妻会長の御祝辞

乾杯後、御来賓の農林水産省の宮浦浩司大臣官房総括審議官（新事業・食品事業）、渡邊頭太郎食品製造課長等が到着されたところで、記念式典を開催し、初めに館野洋一郎会長が以下の内容の式辞を朗読した。

「70年前、全油販連は、『戦後の統制解除後の原料・製品の品不足』と『朝鮮戦争後の輸入原料の供給過剰』が短期間に生じた混乱期において、政府への各種要請及び油脂メーカーとの協調・連携を図ることを主眼として設立されました。設立当時は東京・関西・愛知を中心に神奈川・福岡・山口・熊本・長崎の団体など一都十六府県に及ぶ各地域の油問屋・油脂卸が大同団結した体制であったことが窺えます。

そのような中で全油販連では、『食用油の消費増進』『油脂販売店の保護・育成』『適正利潤の確保』をいわゆる長期事業計画として展開していきました。このうち『食用油の消費増進』については、戦後の国民の栄養不足を高カロリー食で改善しようというスローガンの下、当時の農林省・食糧庁や油脂製造業界の後援も頂きながら各種イベントを展開しており、例えば、油脂類を使った調理法を講習する『油脂教室』の開催は、昭和

32年に全国で80回にも及びました。

また、昭和40年代の高度成長と狂乱物価の時代に入りますと、これに対応した新たな油脂流通システムの構築が課題となったため、油脂メーカーとの『製販懇談会』を定期的開催するようになり、油脂の安定供給や市況問題について忌憚のない意見を交わしあう場として大きな役割を果たすようになりました。

最近では、油脂業界の未来図を描くための若手経営者や従業員向けの研修として企画される『油の花フォーラム』や『油脂未来セミナー』についても、日本植物油協会や油脂メーカー各社の御協力によって、毎回、大変有意義な機会となっているところです。

このように全油販連が時代ごとの様々な課題を乗り越えて今日まで前進してまいれたのは、皆様方の御理解・御支援の賜物であり、改めまして、心より感謝申し上げる次第です。

近年、油脂業界を取り巻く環境は大きく変わり、コロナ禍によるライフスタイルや価値観の変化によって生じた新しい需要への対応や、地球温暖化や国際情勢の変動を踏まえた油脂の安定供給の在り方が喫緊の課題になっています。今後は全油販連の『70年間の歩み』の中に指針を見出しながら、原点に立ち返った事業展開が重要となるものと存じています。需要と供給の両面でパラダイムシフトが生じている今だからこそ、『新しい食用油の需要の把握・開拓』と『新たな安定供給の枠組みの構築』、『そのような役割・機能を果たしていける経営の確立』、に向けて、歩みを進めていければと存じます。』

続いて、農林水産省の宮浦浩司大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）より「全油販連様は戦後の復興期からずっと国民生活を支えてこられた。昨今、世界の情勢が変化し、これまでと同じサービスを皆様方が取引先様に提供するのが難しくなっていると私も感じている。この70年の長きにわたり、常に変わりながら障害を乗り越えてこられた皆様方にお知恵を拝借しながら、一緒に次の時代に繋がるような取組を進められたらと思う」との祝辞を頂き、農林水産大臣感謝状と大臣官房長感謝状が授与された。農林水産大臣感謝状は、金田雅律氏（㈱マスキチ社長）、浅井修氏（富田産業㈱会長）、木村顕治氏（㈱マルキチ社長）、宇田川公喜氏（㈱宇田川商店社長）、太田健介氏（太田油脂㈱社長）の5名が受賞。大臣官房長感謝状は、酒井英彦氏（㈱大新社長）、大家章嘉氏（㈱大家商店社長）、佐橋徳洋氏（㈱徳万商事社長）、大家正光氏（(資)大家商店代表社員）、中川雅弘氏（中川油脂㈱社長）、木村真治氏（㈱ナニワ社長）、伊藤盛康氏（東海油化学商事㈱社長）、穴水健治氏（穴水㈱社長）の8名が受賞。金田氏が代表して謝辞を述べた。

記念式典終了後、祝賀パーティーは和やかに進行し、最後に木村顕治副会長（関西油脂連合会会長）と佐橋徳洋副会長（愛知県油脂卸協同組合理事長）が油メを行った。

なお、本来は、第1部 記念式典、第2部 記念講演会、第3部 祝賀パーティーの予定であったが、御来賓・感謝状授与者である農林水産省幹部の方々のやむを得ない御事情により、急遽、記念式典は祝賀パーティーの中で行うこととなった。当日、農林水産省の方々には御多忙中にも拘わらず駆け付けていただき、無事に式典を開催することができた。



館野会長の式辞



宮浦審議官の御祝辞



木村副会長、佐橋副会長の油メ



農林水産大臣感謝状受賞者



大臣官房長感謝状受賞者

全油販連創立 70 周年記念誌

油脂の安定供給と価値創出へ勇往邁進
～パラダイムシフトの中で～

【編集後記】

全国油脂販売業者連合会におかれましては昨年 3 月に創立 70 周年を迎えられ、10 月に開かれた記念式典・記念講演会・祝賀パーティの大盛会を含めまして心よりお慶びを申し上げます。

祝賀パーティのお土産とあわせてご参会の皆様にお持ち帰りいただいた創立 70 周年記念誌の制作に携わらせていただきました。あくまで裏方ですので本来このような輝かしい場に似つかわしくないとは思いますが、編集後記的なことをご依頼いただきましたので少しだけお付き合いください。

まず、記念誌編纂にあたって、館野会長からこれまでの 50 周年、60 周年の記念誌以上に充実した内容にというご希望をいただき、身が引き締まったことを覚えています。年表・資料で 60 年以降の歴史を振り返りながら、今を生きる油問屋・油脂卸の皆様が何を考え、どのように行動されてきたのか、さらに将来に向かっての展望を含めて語っていただき、形に残すことで後世に歴史を伝えられればと考え、現役員の皆様を中心に座談会を催させていただいた次第です。全国油脂販売業者連合会の皆様が油脂メーカーと一体となってこれからも油脂業界を牽引し、勇往邁進されるであろうというご期待を抱いていただけましたら、裏方としてこれに優る喜びはありません。

全国油脂販売業者連合会は、館野会長が述べられた式辞や、祝賀パーティの宇田川副会長の開会挨拶でもふれられた通り、戦後の統制解除後の品不足と、朝鮮戦争後の輸入原料の過剰供給が短期間に生じた混乱期において、政府への各種要請、また油脂メーカーとの協調・連携を図ることを主眼に、東京・大阪・愛知を中心に 1 都 16 府県におよぶ油問屋・油脂卸が大同団結して昭和 28 年 3 月に設立されました。

折角いただいた機会ですので、ここでは、これまでの記念誌等で詳らかにされていないことについて若干お話をしたいと思います。

全国油脂販売業者連合会設立の契機になった事案として、菜種油の国家買上げが当時検討されていたことはありました。農林省が農産物価格安定法により、菜種および菜種油の買い上げを行おうとしていました。昭和 28 年 7 月の同法成立を前に、いち早く全油販連の名において、特に菜種油の買い上げに反対の声をあげたのです。その理由は明確で、買い上げた菜種油が国内に払い下げられることが脅威となるだけでなく、買い上げのためによる品質の低下も懸念されたからです。

さらに内幕について触れると、当時の自由党の江崎真澄代議士を皮切りに、衆参両院の農林、大蔵委員会、食糧庁長官らへの陳情に加えて、大蔵省主計局長や農林大臣、農林省経済課長らにも陳情し、猛反発したことが菜種油の買い上げを食い止めるのに奏功したことはあまり知られていません。

また、昭和 28 年 5 月に給食用油脂の入札問題も当時問題となっていました。製油家が直接この入札に応じ、食用油 4,000 缶弱とはいえ、販売業者が理解しがたい 2～3 割安の値段で落札したためです。この件については、東京油問屋市場が抗議しましたが、その入札は北海道や山形、滋賀、香川、福岡、長崎と広範に及んだものだっただけに、全国への影響が大きいという判断につながりました。

戦後の油脂販売の統制撤廃以降、油脂販売業界は食用油の消費増進運動に積極的に取り組み、昭和 26 年には東京油まつり実行委員会（白石長三郎委員長）の主催による「東京油まつり」（後援：農林省、食糧庁、東京都、油脂製造業界）が初開催されました。1 カ月をかけて都内 50 カ所近くで街頭宣伝したほか、5,000 軒を超える小売店が参加し、また、大規模な抽選会も行われ大盛況になったことは「東京油問屋史」にも記されています。その後、昭和 28 年 8 月に行われた第 4 回の油まつりでは特に、地味ではあるが食生活の改善普及運動の一環として、油脂の摂取を啓蒙する運動に力を注ぎ、調理講習会を主として行われました。予算の制約が厳しくなったという背景はあったようですが、単なるお祭り騒ぎから脱却し、消費増進という本来の目的に焦点をしっかりと当てる取り組みが進められていました。

こうした給食用油脂の入札問題や、油脂の消費増進運動を全国的なかたちで取り組もうとしたことも全国油脂販売業者連合会設立のひとつの要因になったとみられます。なお、全国油脂販売業者連合会は、昭和 28 年の経団連の食糧対策懇談会の委員に加わり、春から夏にかけて粉食導入生活や脂肪導入生活についての懇談会などにも参加していました。

一方で、朝鮮戦争後、新三品（ゴム・原皮・大豆）の暴落により、油脂業界も大きな混乱に陥りました。東西でトップを争うほどだった神戸の奥田商店や、それに並ぶ規模の関西油脂販売、さらには新興の中で目を見張る近畿油業といった関西の第一線で活躍していた油問屋・油脂卸などが次々と倒産し、続いて関東へも一部波及する事態に見舞われました。全国組織の必要性が求められた最大の要因はここに端を發しますが、これ以上の冗長は控えまして、お詫びとともに筆を置くことにいたしたいと存じます。

株式会社幸書房

代表取締役社長 田中直樹

関西油脂連合会設立20周年



関西油脂連合会は設立20周年を迎えました。

1953年（昭和28年）政府の米価審議会内の農産物価格安定審議会において、菜種の買上げ・払下げ価格および払下げ方法などに関する協議委員会が設置されることになりました。これに代表を送るために全国組織を結成するよう要望され、全国組織結成の呼びかけに応じて販売業者団体の設立を企画したことがこの会の始まりです。

以来、全国の油脂販売業者と共に連携し様々な活動を繰り広げ、2004年に大阪油脂連合会と関西油脂協議会が合併し設立されました。様々な業界団体が存在意義を問われている昨今において前身から数えれば70年もの長きにわたって業界の団体として歩んできたこととなります。

昭和期には農水省など御上へ物申すための連携であったものは現代では姿を変えています。全国の油脂販売業者と共に様々な情報交換の場となり課題について話し合い、また業界の発展のために様々な活動をしています。全国の油脂関連業者とも連携し、若手の勉強会を開催するなど業界を挙げて人材を育てるという大きな役割を担っています。今日的課題として挙げられる様々な危機に備えることも経営においては欠かすことのできない重要な要素です。自社単独ではなしえないセイフティネットを構築し災害に強い業界を作りにも取り組みつつあります。このように一社ではなかなか手のつけられない課題の解決や人材の育成、業界の発展にとともに取り組む横の軸をつくることが業界団体の第一の存在意義です。

もう一つの大切な役割があります。業界を挙げての若手の育成でも述べた通り、次世代を育てるという大切な役割があります。関西、全国の油脂販売業者はほとんどが中小企業であります。一般的に中小企業の事業継承について問題になるケースが多いと聞きます。しかし油脂販売業者の継承はこれらと比較してうまくいっている場合が多いと感じます。現在活動する会員も先輩たちに導かれて関係を作ってきました。

後継者として入ってきた若い世代を、業界を挙げて導き、横のつながりを作る場を設ける事業は受け継いでいくべき大切な事業です。世代を繋ぐという縦の軸を通していくことももう一つの業界団体の大切な存在意義です。

会員、賛助会員とともに皆様のお力添えを頂きながら横と縦の軸を意識しこれからも業界の活性化。発展に努めたいと考えています。

関西油脂連合会
会長 木村 顕治

～設立20周年祝賀会～

関西油脂連合会は11月15日(水) 大阪城を至近に望むザ ランドマークスクエアオオサカにて設立20周年記念祝賀会を開催、会員企業、賛助会員企業の経営者・幹部社員など約70名が参加した。

関西油脂連合会は2004年3月21日に関西油脂協議会と大阪油脂連合会が統合して発足。祝賀会では、はじめに木村顕治会長が「業界団体が存在意義を問われている中で20年続けてこられたことに意義を感じる。全国の油屋との横のつながり、年長の者が若い者をまとめ継承させる縦のつながり。これからも縦と横のつながりを大事にしながら油脂業界をさらに発展させなければと感じている。皆さんのお力添えを得て共に歩んでいきたい」と挨拶した。

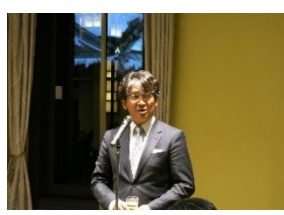
次に日清オイリオグループ(株)三枝理人取締役専務執行役員が「関西油脂連合会が設立された2004年前後に製油業界の再編、2008年には資源インフレがあり相場の急騰と急落、2011年には東日本大震災によりサプライチェーンが寸断される事態もあった。近年ではコロナ禍の需要減退など、数度にわたって価格は是正を経験してきたが、会員企業の皆さんは情熱と信念をもって販売され、激変するマーケットにおいても健全な市場価格の形成に尽力していただいた」と祝辞を述べた。

その後、全油販連館野洋一郎会長が「関油協と大油連が一緒になることで存在感のある団体になるという思いがあったと伝え聞いている。関西発の勉強会が油脂未来セミナーに結実した。コロナ禍で中断されていたが再開し、次の世代につなごうとしている」と乾杯の挨拶を述べた、

祝宴では木村治愛名誉会長が「我々の統合はメーカーの統合が後押ししたと思っている。今日までの20年の間に商慣習も消費者の志向も変わった。これから先、ITやAIにより働き方が変わっていくだろう。業界の歴史についてはプログラムのQRコードを見てほしい」と祝辞を述べた。また、油祖離宮八幡宮の津田定明宮司は「油脂業界の方々一人一人の幸せをお祈りすると共に、気楽に参拝していただける神社になるよう活動していきたい」と祝辞を述べた。最後に中川雅弘副会長がお礼の言葉を述べ油メでしめくくった。会場ではコロナ禍で音楽活動が制限された世代の大学卒業生を中心に結成されたアマチュアオーケストラグループ「オーケストラ クロッカス」の演奏が行われた。



日清オイリオG(株)
三枝専務祝辞



全油販連館野会長乾杯



木村治愛名誉会長祝辞



オーケストラ クロッカス

(写真提供 食品産業新聞社)

愛知県油脂卸協同組合創立70周年



愛知県油脂卸協同組合も創立70周年を迎えました。

組合の歴史を知ることは、改めて大事だと思います。

昭和28年3月に設立された「全国油脂販売業者連合会」が掲げた「長期事業戦略」は、(1)「食用油の消費推進」(2)「油脂販売店の保護・育成」(消防法の改正)(3)「適正利潤確保のための運動(努力)」の3本柱です。その中にある(消防法の改正)は、単に油類の取り扱いが容易になったばかりではなく、一定の規制がとれたことにより、動植物油を商いとする業者の範囲が拡大し、結果的に油脂需要拡大に大きな役割を果たす結果となった。

全油販連を中心とした消防法の改正運動では、「地元選出の国会議員らに数年にわたり、(陳情活動などの)努力を重ねた結果が法改正の実現につながり、油脂の貯蔵・保管などを容易ならしめた。」この問題で果たした当組合の評価は、極めて高いものであります。諸先輩方々が協同組合を創立させた時の情熱、又築き育てこられた御苦勞を忘れる事なく、協同組合法第一条の“相互扶助”の精神を常に念頭に置き、健全な市場を形成すること、油脂の適正価格の維持、コロナ禍で生じた閉塞感を打破し、市場の活性化に向けた取り組みに傾注して行く必要があると考えます。当組合も全国油脂販売業者連合会と一致団結し、「国民の命と健康を守る植物油脂を安全・安心・安定的に供給する」という強い使命感と責任感の下に、その役割を果たす覚悟であります。組合の今後の運営については、油脂メーカーの皆様と共に「油の価値を的確に理解し、伝える力」・「油の新しい価値を創りだせる力」・「新たなニーズに対応した油脂の提案・普及」に務め、従来以上に「価値ある存在」になって行く事。

“油の新しい価値(油の本領、油の実力)”とは、作り手の意図を生かしきる、その選び方、使い方(可能性)を探って行く事。油脂だけがもたらすことのできる「おいしさ」。油脂なくしては得られない「働き」。加熱媒体であり、それ自身が旨みの塊でもある油脂は、料理における最重要素材のひとつだと言っても過言ではない。そのためにも実効性のある製販の一体化を実現して行く事。メーカーと卸が車の車輪のごとく一体となってお互いの絆を一層深め、製販協力体制を深化させて行く事をめざす所とします。

又、最後にこの場をお借りして、関係各位のより一層の御支援、御協力、御指導を改めて御願ひ申し上げ、会員企業の更なる御発展と皆様方のご健勝・ご多幸を衷心より申し上げます挨拶とさせていただきます。

愛知県油脂卸協同組合
理事長 佐橋徳洋

～創立70周年記念式典～

愛知県油脂卸協同組合は1月29日(月)にサイプレスホテル名古屋駅前にて創立70周年記念式典と令和6年新年会を開催、47名が参集した。

初めに佐橋理事長は組合の歴史を紐解いた上で、「諸先輩方々が組合を創立された時の熱き情熱、築き育ててこられたご苦勞を忘れることなく、協同組合法第一条の『相互扶助』の精神を常に念頭に置き、健全な市場を形成すること、油脂の適正価格の維持、市場の活性化に向けた取り組みに傾注していく必要があると考える。当組合は全油販連と一致団結し、『国民の命と健康を守る植物油脂を安全・安心・安定的に供給する』という強い使命感と責任感のもとにその役割を果たす覚悟だ」と意欲を示した。また、「今年の干支は『ドラゴン』。龍が現れるとめでたいことが起こると伝えられている。本日は龍の代わりに『チアドラゴンズ』が現れる」と挨拶をした。

次に日本植物油協会 新妻一彦会長（昭和産業㈱会長）が「貴組合は、油脂販売における愛知県を代表する団体として、植物油メーカーとも連携しながら油脂流通の円滑化と市場の開拓に積極的に取り組まれ、油脂の適正価格、安定供給、消費拡大に大きく貢献してこられた。これまで多くの苦難を乗り越え、油脂業界の発展と食生活向上に大きく寄与してこられたことは、組合を構成する会員の皆さま方のご尽力の賜物であり改めてと敬意を表するものである。油脂製品の適正価格の実現により、皆様と一緒に、今年はデフレ脱却に向けて正念場の年として積極的に取り組んでいきたい」と祝辞を述べた。

その後、全油販連館野洋一郎会長が、「全油販連も貴組合と同様に70周年を迎えた。関西からの波を受け全国へ広がっていった『油脂未来セミナー』はコロナ禍で中断していたが、油の新しい価値をつくりだそうと活動を再開している。特にこの5年間、需要と供給の両面におけるパラダイムシフトの中で、油脂は国民生活における将来も含めた位置づけが大きく変化している。国に対する働きかけなどを、貴組合の協力を得ながら行っていきたい」と祝辞を述べた。その後、愛知県議会議員の筒井タカヤ氏が祝辞を述べ、日清オイリオグループ㈱東海北陸支店 正野崎圭一郎支店長の乾杯で和やかな懇親の場に移った。会場は、中日ドラゴンズのオフィシャルパフォーマンスチーム「チアドラゴンズ」がパフォーマンスを披露し華やかに盛り上げた。最後は長谷川徹副理事長の油♨で散会した。



日油協新妻会長祝辞



チアドラゴンズ



油♨️

(写真提供 油脂特報社)

《 賛助会員からひとこと 》

各メーカー様に御寄稿いただきシリーズとして掲載しています。

Summit Spirit

サミット製油株式会社
営業部

【経営理念】

人にやさしい油脂製品・香粧品の未来を創造し、安心と豊かさに貢献する。
活力に溢れ、革新を生み出す企業風土を醸成し、油脂業界のスペシャリストを目指す。

【経営方針】

法と規律を守り、高潔な倫理を保持する。
よき企業市民として地球環境の保全に配慮し地域社会に貢献する。
お客様の信頼と期待に応えられる、魅力的な企業を目指す。
明確な目標を掲げ、情熱を持って行動する。

サミット製油株式会社は、1968（昭和43）年1月29日に設立され、2018（平成30）年に設立50周年を迎えました。

簡単ではありますが、その歴史を振り返ってみましょう。

1964年、食品工業の近代化・合理化を図るため、日本で最初の食品工業団地として、「千葉食品コンビナート」が千葉市新港に造成されました。

1968年1月29日、千葉食品コンビナート内に綿実の搾油・精製による綿実油の製造を目的として、住友商事株式会社とキューピー株式会社、両社の出資により設立。

当社の商号であるサミット製油の「サミット」は、英語で山頂を意味する SUMMIT に由来します。



写真) ロートセル型抽出機



写真) 脱臭塔設置

当社は、綿実油の製造を目的として設立されましたが、一番初めに処理した原料は、ひまわり種子でした。

1968年10月にひまわり種子2,300トが入荷し、11月27日に圧搾工場、12月20日には精製工場の運転が開始されました。

綿実工場は翌年1月に運転開始しています。

綿実については国内後発組であったため、原料確保は厳しく低開発国に依存し、品質問題などの困難がつきものでした。



写真) 綿実工場 (リンターマシン)

1970年代に入ると綿実油を取り巻く環境が大きく変化していきました。

綿実の飼料需要の増加に伴い入手が困難となり、また搾油・精製技術が進歩し、植物油全体の需給構造が大きく変化し、より安価な大豆油や菜種油でもマヨネーズ等の製造が可能となりました。

そのため、1972年4月から菜種油の製造を開始し、翌年3月には脱ガム装置を導入、事業環境がさらに悪化した綿実搾油については1987年12月に撤退しました。

また、出荷は全てタンクローリーとしていましたが、1976年1月に一斗缶充填設備を導入し、一斗缶での販売を開始しました。

1970年代半ばから後半には、人々の健康への関心が高まり健康ブームが到来し、1977年6月よりビタミンEを豊富に含む小麦胚芽油の製造を開始しました。

1983年9月には搾油・抽出・精製のすべての工程を内製化し、小麦胚芽専用プラントが完成しました。今日に続く少量多品種の特殊油脂事業の始まりです。



写真) サミット小麦胚芽カプセル

1986年6月に化粧品小分け包装の免許を取得し、化粧石けん「サミットはとむぎ石けん」の販売を開始しました。

翌年4月には化粧品製造業の免許を取得し、本格的に化粧品事業を開始しました。



写真) はとむぎ化粧品シリーズ 写真) べに花

1995年には健康食ブームによりべに花油市場が急拡大し、当社もべに花油の主要メーカーとなり、お客様からのご要望にお応えすべく、丸缶製造ライン、瓶およびペットボトルラインを新設・増設し、べに花油以外にもオリーブ油、ひまわり油、亜麻仁油、えごま油等の家庭用商品の充填を拡大していきました。

植物油の輸入関税引き下げなど外部環境が大きく変化し、また搾油・抽出設備の老朽化により、搾油・抽出事業から撤退し、海外より原油を輸入し、国内では精製に特化することを決断しました。

その後、2007年4月に特殊油脂プラントを新設し、現在では小麦胚芽油、アーモンド油、マカダミアナッツ油、精製オリーブ油、ハト麦油、ボラージシード油など41種類の植物油脂の製造・販売を手掛けています。

同年4月に低温圧搾機であるコールドプレス機を導入し、コーヒーオイルや黒胡椒油、花椒油など、原料の特徴を生かしたこだわりの香りオイルを手掛けています。

綿実の搾油・精製を目的に設立された当社ですが、様々な外部環境の変化やお客様のご要望にお応えすべく、事業領域や油種を拡大し、現在では41種類の植物油脂の製造・販売を手掛けています。そこには設立当初より『人にやさしい油脂製品・香粧品の未来を創造し、安心と豊かさに貢献する』ため、情熱を持って行動し、油脂業界のスペシャリストを目指した姿があります。

記者の視点

毎回、業界紙誌の皆様からのいろいろな視点で楽しい記事を御寄稿いただいています。
今回は油脂特報社 蟻川社長から御寄稿いただきました。

「宿命」とは

有限会社油脂特報社
代表取締役社長 蟻川 宏

東日本大震災から13年。当時の強烈なトラウマから、あれ以来、揺れに敏感。今年は正月に能登半島地震が発生、直近では関東が揺れまくっている。3月21日、午前9時8分。事務所向かう途中、中央線四ツ谷駅停車時に車両が揺れ、乗客のスマホが一斉に緊急地震速報を鳴らした。

岩手県宮古市で中高6年間を過ごし、妻は高校3年時の同級生。実家は三陸大津波など何度も被害を受け、長大な防潮堤を築いたことで有名な田老町（現在は宮古市と合併）で、町全体を囲む総延長2433メートル、高さ10メートルの壁はかつて「万里の長城」とも呼ばれた。

2011年3月11日14時46分。当時47歳だったが、経験のない激しい揺れに東京・神田の事務所は本棚が倒れ、その扉のガラスが砕け散った。巨大な津波が三陸沖を襲ったと伝えるテレビ。その映像を見たとき、最初は液状化が起きたのだと思い、それほど深刻には考えていなかった。しかし、その後の惨状は今に伝えられている通り。妻の実家、そしてすぐそばにあった義理の姉の家も津波にさらわれた。脳梗塞を患い、寝たきりで家にいた義理の母は今も行方不明のままである。

昨秋、がんを患い、一時は死を意識。運よく復活できたのだが、その経過を振り返ると、すべてがラッキーだったとしか言いようがない。そこに「宿命」を感じざるを得ない。

3・11の1週間ほど前、妻が実家の母の様子を見に行きたいといい、娘と一緒に田老に帰ることになった。当時、娘は高校三年生の受験生。大学に合格していたら、妻も娘も津波にさらわれていたかもしれない。

2024年3月、妻は元気で孫の面倒をみている。娘は二児の母親だ。13年前の2月末、なぜ妻と娘は田老に帰らなかったのか。娘は受験した大学に合格できず、浪人するのか、それとも別の道を探るのか、要するに進路が決まっていなかった。妻は実家に帰るのは娘の進路が決まってからにするとした。妻は二度と実家に帰ることはなく、母親に会うこともなかった。

3月11日を迎えるたびに、もし娘があの時、大学に合格していたらどうなっていたのか、と考える。いまでこそ「娘がアホで良かった」と笑い話しにできるが、最悪の事態を想像すると、それは恐ろしい。同時にこれも「宿命」であったのか、と思わざるを得ない。

そして、もう一つ、そこに大きな「宿命」があった。妻は4人兄弟で姉が二人、兄が一人。兄は地元で消防士、実家にいた。当時、長姉が闘病中で花巻の病院に入院していた。3・11、兄はその姉の見舞いに行き、津波に巻き込まれることを免れた。もし、見舞いに行っていなかったなら……。

「宿命」とは、自分の意志に関わらずやってきて、避けて通れないもののうち、生まれる前に決まるものを指す。そして、生まれる前に決まってしまうため、まったく変えることはできないし、避けて通ることはできない。宿命の「宿」は「前世からの」という意味を表わす。

生きていることに感謝し、自分のでき得ることを全うしたい。

『油脂未来セミナー～油の花から実へ～』 再開！

全油販連では、平成30年6月より「油の価値を的確に理解し伝えることができる力」「油の新しい価値を創り出せる力」を体得することによって、油脂販売業界全体が『メーカーとユーザー・消費者の双方にとって価値ある存在』になることを目指す【油脂未来セミナー～油の花から実へ～】を開催していたところ、コロナ禍により中断となっていました。この度、3年半ぶりに再開しました。

◎第6回「油の栄養」

講師：一般社団法人日本植物油協会専務理事 齊藤昭様

日時：令和5年6月20日（火）16：00～17：45

会場：東京シティエターミナルT-CATホール

第6回は“植物油と健康に関する最新情報を学び、油脂の業界人として知識を深める”を趣旨として、東京会場のリアルとオンラインで開催、73名が参加した。

一般社団法人日本植物油協会齊藤専務理事に講師を務めていただき『植物油を巡る最近の動向～栄養・健康に関する情報を中心に～』をテーマに、近年明らかになってきた新しい「油の栄養」の知見・情報について講義を受けた。その後グループディスカッションを行い、どのような健康油をどのような業態にどのように売り込むか？を話し合い、「油の健康」についての最新知見を基に、どのように仕事に活かしていくかを各グループの代表が発表した。

その後は同建物内の中華料理店にて懇親会が行われ、3年半ぶりの開催で初めての参加になる若手社員も多い中、賑やかな懇親会となった。



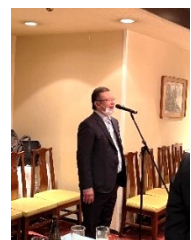
館野会長挨拶



講師 齊藤専務理事



グループディスカッション



佐橋副会長懇親会油ペ

(写真提供 食品産業新聞社)

◎第7回「油脂の違い」

講師：日清オイリオグループ株式会社

ユーザーサポートセンター中食・外食開発課主事 鱒岡雅人様

日時：令和5年10月5日（木）16：30～18：30

東京会場：PRONT神田店 大阪会場：(株)マルキチ

第7回は「サラダ油・キャノーラ油・コーン油・米油・綿実油の基礎知識講義を受け、実際に

揚げたポテトで油の味比べをし、油脂の違いを知る”を趣旨として、東京会場と大阪会場をオンラインで繋ぎ73名が参加した。

日清オリーブグループ(株)鯨岡様に講師を務めていただき『油脂の基礎知識』をテーマに①「あぶら」とは？②油脂の製造工程について③油脂に関するQ&A④植物油の構造と機能(栄養)について⑤油脂の劣化についてを学んだ。その後綿実油、パーム油、大豆油、キャノーラ油で揚げたフライドポテトの食べ比べを行い、グループディスカッションでは油の特徴やどのような業態、どのようなメニューに提案するかなどを話し合い、各グループの代表者が発表した。

その後東京会場では同場所にて懇親会が行われ活発な意見交換の場となった。



館野会長挨拶



講師 鯨岡様



司会 金田企画委員



4種の油の
フライドポテト



グループディスカッション

(写真提供 油脂特報社)

◎第8回「オリーブオイル」

講師：島商株式会社代表取締役社長 島田豪様

日時：令和6年3月13日(水) 17:00~18:30

東京会場：+NARU NIHONBASHI (プラスナル ニホンバシ) 大阪会場：(株)マルキチ

第8回は、オリーブオイルの基礎知識の講義を受け、実際に味比べをし違いを知る”を趣旨として、東京会場と大阪会場をオンラインで繋ぎ62名が参加した。

講師は油脂未来セミナー実行委員長でイタリアソムリエ協会認定のオリーブソムリエの資格を持つ島商(株)島田社長が務めた。講義では、先ずオリーブオイルの基礎知識(製造工程、実の種類、産地、消費量推移、気候、製造ノウハウなど)を学び、その後テイस्टィングのやり方をレクチャーしてもらい、三種類のEXVオリーブオイル(ピクアル、トンダイブレア、ディフェット)のテイस्टィングを行い視覚・香り・味覚の違いを知った。その後のグループディスカッションでは野菜スティックやトマトソースにつけて味の違いを比較。グループの代表者がオイルの味、風味の特徴描写を発表し、また大阪会場からも活発な意見が出された。

その後東京会場では同場所にて懇親会が行われ、自然野菜とオリーブオイルふんだんに使ったファームキャニングさんによるケータリング料理とワインで和やかな懇親会となった。



館野会長挨拶



講師 島田社長



テイस्टィング



グループディスカッション



ケータリング料理

(写真提供 油脂特報社)



東京油問屋市場 第124回起業祭を開催

と き 令和6年3月25日(月) 15:30~18:45
ところ ロイヤルパークホテル(東京・中央区)

東京油問屋市場では第124回起業祭を開催し、来賓、賛助会員、営業人等82名の参加で盛会となった。

第1部『式典』では、島田豪理事長が「本日第124回、開所364年の起業祭を迎えるにあたり、その歴史を回顧し、油脂業界の発展に寄与された先輩方の業績と努力を讃え、想いを新たにして時代の変化に対処する決意を固め、今後の発展を期したい、とお願いしております」と式辞を朗読。続いて喜田正道情報委員長が油メを行い、その後宇田川公喜副理事長が式辞の解説を行った。「東京油問屋市場は明治34年3月25日に創立。この時期に大豆の搾油が始まっている。油の情勢が大きく変化し、新しい油脂原料として大豆が出てきて、手工業的な搾油から近代的な搾油へと変換があったことから油市場が組織された」と東京油問屋市場の歴史を述べた。

第2部『講演会』では、北里大学北里研究所病院副院長・糖尿病センター長/医学博士の山田悟先生が「科学的根拠に基づく最新の栄養学～油脂こそはもっとも安全な栄養素～」と題し、油脂摂取の有用性などについて講演された。

第3部『懇親パーティー』では、始めに島田理事長が「山田先生の講演では、私たち油業界にとって大変力強いメッセージで、油をどんどん摂って良いというお話をいただいた。ここにお集まりの各メーカー様は色々と素材の味を生かす油を開発されている。私たち油問屋としては、山田先生のメッセージとともに、良き油を摂取することをお手伝いをできれば幸いと思う」と挨拶した。

続いて一般社団法人日本植物油協会の新妻一彦会長(昭和産業㈱会長)より「東京油問屋市場の



日油協新妻会長 御挨拶

皆さまの団結力、結束力、そして植物油に対する愛情、熱ををひしひしと感じている。植物油の市場拡大、価値向上にご尽力いただいていることに心から感謝を申し上げたい。皆さまと我々メーカーが一体となって、日本の豊かな食生活を共に支えるとともに、健康維持に欠かせない油脂の価値を共に高めてきたのではないかと考えている。東京油問屋市場が長きにわたって培ってきた伝統と歴史、これが末永く継承され



島田理事長 式辞朗読



宇田川副理事長 式辞解説



山田先生 講演



全油販連館野会長 乾杯

ることを祈念申し上げる」と御挨拶をいただいた。

その後、乾杯音頭を全油販連館野洋一郎会長が行い「全油販連は戦後からであるが、東京油問屋市場は明治、その元をたどれば江戸時代からの歴史がある。この歴史というものを私たちがどのように繋いでいくのか。守るべきものは守り、変えるべきは変えていく、ということが肝要なことと感じている。この数年で商品のあり方、油脂の供給のあり方が大きく変化している。私たち油問屋としても、しっかりと新しい価値を創り出していけるようがんばっていききたい」と述べ杯を挙げ、懇親の場に移った。

乾杯後の団らんの中、サプライズイベントとして、突然場内が暗くなり木遣りの掛け声とともに半纏を着た情報委員が入場。東京油問屋市場営業人が油屋としての誇りを背にした半纏を披露した。これは令和2年の第120回起業祭の記念事業として発案したものだがコロナ禍であったため、それから四年を経ての実現となった。

「両襟に『東京油問屋市場』、襟裏には営業人の『屋号』、背中には『油』の文字を江戸文字で入れ、油の文字の下には油滴と油波紋を描いた。これは、油を最後の一滴まで丁寧に販売し、我々東京油問屋市場営業人としての自覚と団結力、そして東京油問屋市場の存在を表すもの。今後は市場の行事開催時を中心に着用していく」と、田口企画委員長より述べられた。

中メは穴水健治副理事長が務め、半纏を身にまとった営業人一同が前方に集合して油メを行い起業祭を締め括った。



情報委員による半纏のお披露目



東京油問屋市場営業人一同による油メ

(写真提供 油業報知新聞社)

日使頭祭

令和6年4月6日(土)

京都・大山崎の油祖離宮八幡宮において恒例の日使頭祭（ひのとさい）が行われた。桜満開の好天に恵まれ、メーカー、販売業者、関係団体の代表者ら油脂業界から約90名が出席。また総代会、地元関係者も多数出席し、油脂業界のさらなる繁栄や参拝者の無病息災を祈願した。

午前11時開式、献燈や湯立、祝詞奏上、玉串奉奠などの伝統神事が行われた。式神楽、湯立の神事は5年ぶりとなった。

式典の後、本年の日使頭（ひのかしら）を務めた一般社団法人日本植物油協会の新妻一彦会長（昭和産業(株)会長）が油祖離宮八幡宮の歴史を紹介し、「我が国の植物油は初めてこの地で搾油され、かつては燈明として利用され、人々の生活に灯かりをともしてきた。最近では人々の健康維持に不可欠かつ重要なエネルギー源であり、風味・おいしさが評価され食生活に定着している。私ども植物油業界は、植物油という国民の命と健康を守る価値のある商品を取り使う使命を果たすため、直面するさまざまな課題に正面から立ち向かっていくことを誓う」とあいさつを述べた。

この後は、社務所内に場所を移し『直会』を5年ぶりに行った。はじめに崇敬会 木村治愛副会長（株マルキチ会長）が「油屋にとって、離宮八幡宮は歴史と文化の誇りである」とあいさつを述べ、引き続き昭和産業(株)駒井孝哉常務執行役員大阪支店長が「コロナ、原料高、円安とここ数年油脂業界は非常に苦しんでいる。環境変化に即した業界にしなければならないと思う」とあいさつを述べた。その後、全油販連 館野洋一郎会長（株タテノコーポレーション社長）の乾杯の音頭で懇談に入り、関西油脂連合会 木村顕治会長（株マルキチ社長）による油メで散会した。境内では、模擬店や搾油のデモンストラクション、和太鼓演奏や地元の音楽祭が催され、コロナ前の賑わいが戻った。



(写真提供 油脂特報社)

各地区の活動状況

<令和5年6月～令和6年4月>

令和5年

- 6月20日(火) 全油販連企画委員会はコロナ禍で中断していた『油脂未来セミナー～油の花から実へ～』を3年半ぶりに開催した。今回は第6回となり「油の栄養」について、全国各社の若手・中堅社員を中心とした73名が学んだ。(詳細別掲)
- 6月26日(月) 東京油問屋市場は第123回定時総会をロイヤルパークホテルにて開催した。
- 7月19日(水) 東京油問屋市場は情報委員会を行い、㈱J-オイルミルズから「油脂原料の動向」について説明を受けた。
- 8月22日(火) 東京油問屋市場は情報委員会による夏季製販懇談・懇親会を4年ぶりに開催した。昭和産業㈱とかどや製油㈱より「最近の油脂事情」の説明を受け、製販営業役職者等33名の参加で活発な意見交換の場となった。
- 9月21日(木) 東京油問屋市場は情報委員会を行い、竹本油脂㈱から「ゴマ油事情」について説明を受けた。
- 10月5日(木) 全油販連企画委員会は『第7回油脂未来セミナー～油の花から実へ～』を開催した。「油脂の違い」について73名が学んだ(詳細別掲)
- 10月19日(木) 東京油問屋市場は情報委員会を行い、日清オイリオグループ㈱から「食用油の原料事情」について説明を受けた。
- 10月20日(金) 一般社団法人日本植物油協会主催の『第31回植物油栄養懇話会』が第27回以来のリアルで開催され、会員多数が参加した。
- 10月21日(土) 関西油脂連合会は恒例のゴルフ懇親会をキングスロードゴルフ倶楽部で開催し、会員・賛助会員16名の参加で盛会となった。
- 10月24日(火) 全油販連は第70回定時総会をロイヤルパークホテルにて開催した。総会後は創立70周年記念講演会、記念式典・祝賀パーティーを盛大に行った。(詳細別掲)
- 10月25日(水) 東京油問屋市場は全油販連との共催で、第38回油脂製販懇親ゴルフ会(YSG会)を東京ゴルフ倶楽部で開催。製販の有志19名が参加した。
- 11月13日(月) 愛知県油脂卸協同組合は石油会館にて、令和5年永年勤続優良従業員表彰式及び元中日ドラゴンズ投手の小松辰雄氏による経営講演会を開催した。
- 11月14日(火) アメリカ大豆輸出協会主催の『米国大豆バイヤーズアウトトラック会議2023』がホテルオークラにて開催され、会員多数が参加した。
- 11月15日(水) 関西油脂連合会は設立20周年記念祝賀会を、ザランドマークスクエア オオサカにて開催した。(詳細別掲)

- 1 1月15日(水) 『第47回日加菜種協議』が如水会館で開催され、オブザーバーで島田副会長、岡本専務理事が出席した。
- 1 1月16日(木) 東京問屋市場は情報委員会を行い、岡村製油㈱から「綿実油の原料事情等」について説明を受けた。
- 1 2月13日(水) 東京油問屋市場は『令和5年大納会』を東京シティアターミナルにて開催した。来賓、賛助会員、営業人等78名の参加で盛会となった。
- 1 2月25日(月) 全油販連正副会長は東京油問屋市場正副理事長とともに、製油メーカー大手3社に年末の挨拶回りを行った。



宇田川副理事長の油メ

令和6年

1月5日(金)



全油販連一同の油メ

油脂6団体共催の『第62回油脂業界新年交礼会』がロイヤルパークホテルにて開催された。農林水産省をはじめとする関係官庁、関係団体、油脂メーカー、問屋、商社から500余名が参集。式のはじめには、元旦に発生した令和6年能登半島地震の被害状況を鑑み黙祷を捧げ、また、乾杯は行わなかった。最後は全油販連 館野会長をはじめとする全油販連一同で油メを行った。

2024年 油脂関

1月9日(火)

関西地区の『2024年油脂関連業者賀例会』が日航ホテル大阪で開催され、関西を中心とした油脂メーカー、問屋関係者など約150名が参集した。



木村関油連会長の挨拶

1月10日(水)

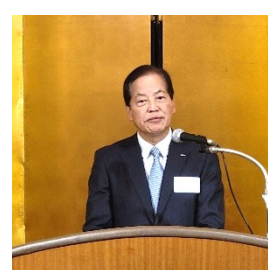
東京油問屋市場は『令和6年初立会』を東京・ロイヤルパークホテルで開催した。伝統行事である立会では、昨年再現した狂乱物価の昭和49年12月と比較しながら昭和51年1月の立会を再現した。来賓、賛助会員、営業人など85名の参加で盛会となった。



島田理事長の挨拶



喜田情報委員長の立会再現



新妻日油協会長の年頭祝辞

1月14日(日)

関西油脂連合会は油祖離宮八幡宮に恒例の初詣を行った。

1月22日(月)

東京油問屋市場は佃島住吉神社に初詣を行い、油脂製販関者約42名が参拝した。その後、浅草にて製販懇談・懇親会を行い20名が参加した。

- 1月29日(月) 愛知油脂卸協同組合はサイプレスホテル名古屋駅前にて『令和6年新年会ならびに創立70周年記念式典』を開催した。(詳細別掲)
- 2月15日(木) 東京油問屋市場は情報委員会による冬の製販懇談・懇親会を4年ぶりに開催した。(株)J-オイルミルズとポーソー油脂(株)より「最近の油脂事情」の説明を受け、理事長や製販営業役職者等34名の参加で活発な意見交換の場となった。
- 3月13日(水) 全油販連企画委員会は『第8回油脂未来セミナー～油の花から実へ～』を開催した。「オリーブオイル」について62名が学んだ。(詳細別掲)
- 3月25日(月) 東京油問屋市場は『第124回起業祭』をロイヤルパークホテルにて開催した。(詳細別掲)
- 4月5日(金) 東京油問屋市場は、油祖離宮八幡宮における日使頭祭の『前夜祭』を京都・左京区にて行い、製販の有志21名が参集した。
- 4月6日(土) 京都・大山崎の油祖離宮八幡宮にて『日使頭祭』が開催された。油脂業界製販各社、業界団体の代表者など約90名他、総代会、地元関係者も多数参加した。(詳細別掲)
- 4月18日(木) 東京問屋市場は情報委員会を行い、日清オイリオグループ(株)から「オリーブオイルの状況」について説明を受けた。

(写真提供 油脂特報社)

【 会 員 情 報 】

● 訃報

全国油脂販売業者連合会第十代・第十四代会長の島田孝克顧問（島商株式会社相談役）が、令和6年4月5日(金)誤嚥性肺炎のためご逝去されました。享年85歳。

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

★ 吉報

4月29日(月)、令和6年度春の叙勲で全国油脂販売業者連合会第十七代・第十九代会長の金田雅律理事（株式会社マスキチ代表取締役社長）が、栄えある旭日小綬章を受章されました。おめでとうございます！

編集後記

令和6年第1号の「全油販連NEWS」をお届けします。

皆さんご無沙汰しております。

久しぶりの全油販連ニュースをご愛読いただき誠にありがとうございます。

再開にあたり、今号に記事を寄せて頂いた方に感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスが第5類に移行して早いもので一年が経ちました。

全油販連の行事も例年通りになって参りましてニュースの記事になる中身も増えてきました。

今後は各方面からの御協力を頂きまして全油販連の活動を充実させて行く所存でございます。

今後とも全油販連ニュースを宜しくお願い致します。

山あいの湯につかりながら著（しる）す@鹿教湯温泉
企画広報委員会 宇田川 公喜



▲
全油販連ニュースは
こちらからも

全油販連ニュース（R6-No.1） 〈非売品〉

全国油脂販売業者連合会

発行人 会 長 館野 洋一郎

編集人 企画広報委員会 宇田川 公喜

（編集係：岡本・松山）

〒103-0014

東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-12

油商会館ビル8F

TEL 03-3666-4356

FAX 03-3666-4399